

日本原子力学会 熱流動部会  
熱水力ロードマップ H28年度幹事会(第1回) 議事録

日付： 2016年6月1日(水) 09:30～12:00(予定)  
場所： 東大工学部8号館226会議室  
参加者： 糸井(東大)、岩城(東芝)、大貫(MHI)、木藤(日立GE)、中村(JAEA)  
(欠席者)： 西(電中研)  
(オブザーバー) 野崎(テプシス) (熱流動部会 研究委員長)

配付資料(案)

- 1) 資料1-1: 2015年度熱水力ロードマップ第1回幹事会 議事案
- 2) 資料1-2: 熱流動部会RM WG設立趣意書(案) 160322改2
- 3) 資料1-3: 熱水力ロードマップ <<メモ>> メール審議込み
- 4) 資料1-4: 熱水力RMの抜粋
- 5) 資料(番号無し): 学会2016春の年会 熱流動部会全体会議への活動報告

議事録(案)

自己紹介を行った。

資料1-1～4を基に、中村幹事より、これまでの経緯、ロードマップの特徴(特に、外的事象の扱い)、ロードマップの利用(予算要求関係を含む)、他のロードマップとの関係(特に、資エ庁+学会のロードマップ)、WGの設立と実施に向けた幹事の役割、ローリングに際する考え方、などについて、説明や提案が為され、議論された。

主な議論:

● 熱水力ロードマップの役割や利用など

熱流動部会の熱水力ロードマップは、産業界、学术界が主対象と考えられる。規制側の「規制委員会における安全研究について」(<http://www.nsr.go.jp/activity/anzen/housin/index.html>)がロードマップの一種と考えられる。実施課題での重複が生じない様に、相互に内容確認を図ることは必要となる。

R&D 予算要求を考えたとき、役所(資エ庁、JST、規制庁、等)への説明が必要と思われる。

資エ庁が学会と協力して昨年6月に策定したロードマップとは、内容の整合性を確認して、資エ庁などへ説明することが必要となる。ローリングの結果、改定されるロードマップでは、その点も明記する。

ローリングによる改定は、次の概算要求時に間に合う様に行う。

● WG とローリング

WGの主査には越塚先生が就任されることで、本人より了解が得られている。

WGの開催を考えたとき、年2回の学会の場で行うのみでは、顔を合わせた議論は充分にできないのではないかと。WGの設立の計画では予算の無い活動とされているが、必要があれば、年度途中でも部会予算の一部の利用を考えてはどうか。その場合、幹事のうち、旅費の処理などに係る事務が実施できる人を選定する必要がある。

WGのメンバーは、ロードマップの技術マップや個票の内容(含、シビアアクシデント、外的事象)を熟知し、アップデートに対応いただける人を選出する必要がある。

ロードマップのローリングは成果を基に為されるため、ロードマップ策定直後は評価しにくい課題は有る。ただし、熱水力RMには策定された昨年3月に実施中の国プロ等の課題の大部分が記載されており、成果が得られているものは評価できる。

ローリングの中では、国プロをはじめ、終了した課題、新しく開始を計画している課題等について、アップデートと評価を行う必要がある。そのとき、今後のR&Dについては、産業界は各社で独自の計画を持っており、その様な内容をアップデート時に参考にできると良い。

● 外的事象

関連他学会との連携では、他学会が関与する事業の評価等も必要になると思われ、対応は容易で

はない印象である。具体的な対応には技術マップへの課題の繰り入れや個票の書き方の改定などが考えられるが、例えば電中研殿では、関連の取り組みをされているので、西幹事に関連の方々をご紹介いただき、具体的な対応をご一緒いただくことを考えてはどうか。

扱う事象は、津波（含、溢水、河川氾濫）、竜巻（含、台風時の強風）、火災（含、森林火災、内の事象であるケーブル火災など）、火山、の現在揚げられている4項目とした。（地震は今後、継続的に検討）

外的事象では、地震時のレベル2PRAなど、必ずしも速やかに対応が進んでいないものも有るが、それらについては、WGメンバーにその分野の人を選出することを計画する。

事業者は、現場の対応を含む外的事象に係る議論に詳しいが、さらなる課題については、なかなか言い出せないかもしれない。

● 幹事会の役割

幹事会は、これらの情報を集めて整理し、WGでの審議にかける準備を行う。

当面の実施課題：（分担も記載）

課題の実施は、なるべく速やかに行って、結果をメールで共有する。

No	課題	分担	メモ
1	資工庁RMとの整合確認と表示	岩城、木藤	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 学会HPに収録される個票を見て、熱水力RMの内容と整合する部分を探し、整理</li> <li>◇ 改定RMでの対応： 整理結果をRM内の紹介ページ（現128ページ）に掲載して、ロードマップの関係を明示</li> </ul>
2	外的事象のRMでの具体化	糸井、電中研の方（西氏紹介）	<ul style="list-style-type: none"> <li>4項目（津波、竜巻、火山、火災）について、次の項目を検討</li> <li>◇ 技術マップへの組み込みの方法</li> <li>◇ 個票の改定（他課題と同じ書きぶり+評価）</li> </ul>
3	個別課題のアップデート	全員	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 国プロのリストアップ、進捗と今後の計画を整理 [岩城、木藤、大貫、西、中村（JAEA基礎工など）]</li> <li>◇ 「英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業」等JSTプログラムの実施課題を収集・整理 [糸井]</li> <li>◇ エネ総工研（含、ポストSAMPSON）の進捗と次の計画（実験を含む） [中村]</li> </ul>
4	WGメンバー候補者の推薦	全員	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 適任と思われるWGメンバー候補を持ち寄る [対応課題]</li> <li>全体課題の議論、技術マップの改定（含、シビアアクシデント、外部事象）、個票の記載や内容の確認</li> </ul>

当面のテンポ ～ 約1ヵ月おき（7月初頭、8月初頭）に幹事会を行う。途中ではメール審議を行う。

- ① 7月： 当面の実施課題の結果を議論  
WGメンバー候補の案を議論・候補者を確定し、打診メールを出す。
- ② 8月： WG実施の具体的方法を検討。  
越塚主査候補への説明を行う。  
部会全体会議への報告案を作成（WGの設立まで）
- ③ 9月： 大会@7～9日

以上